（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4490100148		
法人名	株式会社　優華		
事業所名	優華　グループホーム戸次の里		
所在地	大分県大分市中戸次字東浦4287番地		
自己評価作成日	平成22年4月26日	評価結果市町村受理日	平成22年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100148&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212　チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成22年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住宅街に位置しており、近くに小学校があり、チャイムの音や子供の声が聞こえる。

平屋建てで天井が高く、天窓があり陽の光がよく入る。

人生の大先輩である入居者への尊敬の気持ちを持ち、生活リハビリを重視した支援を

心がけている。最期まで過ごして頂けるよう、家庭的な「みとり」ができる施設をめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

市郊外の住宅街に位置しており、急速な人口増加の影響が見える地域に健在する鉄骨一階建て左右対称の2ユニットの施設であり、毎日の交流が日課となっています。市内でもマンモスな小学校に程近く、生徒の日課や季節の行事を伝える生活音なども耳にできる日常にあります。居室の中心に位置するホール一角には数個のソファーが設けられ、気ままな雰囲気を楽しめる演出があり、憩いの場として活用されています。暮らしやすさに着目しハード面の改善を行うなど、高齢者にとって生活の全般がリハビリに通じる体力保持の活動である事を職員は意識しており、負担を与えない言葉かけに留意しながら、一人ひとりの介護計画の目標に添った支援に励んでいます。また、地域で生活する家庭の一人としての趣きを大切にしながら、個々の利用者が家族として施設の中で生涯の生活を有意義に営むための支援と、その延長にある介護『看取り』にも積極的に取り組んでいます。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.基本は地域の交流・協調ができる家庭である2,みとりの介護(家庭的)をめざす3,介護者が楽しくゆとりのある生活を過ごしていなければ、十分な介護をさせてもらえない理念は事務所に掲示毎朝唱和している。	施設(家庭)の中で、また、地域の一員としてその人らしく日々の生活が送れるように、一人ひとりの暮らしぶりを大切に、理念の実践に即した支援に取り組んでいます。採用時から理念が説かれるなど、職員間の関係づくり(調和)にも努めています。	理念2として表明されている『みとりの介護(家庭的)』の支援として、現在を生きる利用者の生活の延長にある「みとり」に取り組んでいる、全職員の積極的な姿勢に大いなる期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年末、隣接地にグループハウス設立し、訪問者や見学者も増えた。近くの公園へ散歩し、近隣者との積極的な会話に努めている。敬老会や縁日会など、地域住民へおしらせしている。	地域の小学生の個人的な訪問、ボランティア(手品・ギター等)のお披露目会など、外来者の受入れ体制も整っています。地域住民との日常的な関係を大切に過ごす中で、おすそ分け等のご近所付き合い、消防団との関係作りも行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症フォーラムに、スタッフとして参加協力し、認知症になっても安心して生活できる地域づくりに、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居状況、活動報告、事故報告、テーマを決めて勉強会行っている。委員からも活発な意見がでて、情報交換、助言を頂く場となり、施設内職員会議に活かしている。	長寿福祉課・多数の地域関連・家族会代表等の担当者出席の中で、経過や利用者の現状等の報告において意見等を仰ぎ、相互間の協議に努めています。また、会ごとにテーマ(幹部会議で決定)が提示されており、熱心な会議が行われてます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは連絡を密に取り、相談事などは市役所に出向いて助言してもらっている。	市担当者の訪問・電話相談による連絡の発信など、相互の協力的な関係づくりに努めています。地域包括支援センター主催の行事においても協力関係にあり、地域のおける施設の役割りの把握と積極的な支援の状況が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の帰宅願望が強い場合、夕方の申し送りの時間帯はやむを得ず玄関を施錠することはある。拘束用品の使用はしていない。拘束せずに、危険を減らすためには・・ということを職員間で常に話し合っている。	「人生の先輩」である利用者一人ひとりの思いの尊重と、安全面への対応と対策等について勉強会での学び、並びに、日常生活から伺える状態の変化への気づきの目(心)を大切に、職員間で共通の知識を持ち、実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、施設内で伝達研修を行っている。職員が精神的に追い込まれ虐待に繋がらないよう、日頃から話をする。ことばづかいについても、職員間で注意しあえるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者あり、成年後見人とは連絡を密にとっている。他入居者の身元引受人にも、制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に充分な時間をとり、重要事項説明書、契約書を1項目ずつ説明を行い、1度、持ち帰ってもらい、納得、了解、同意を得て、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会代表に運営推進委員に入ってもらっている。家族会の開催、意見箱の設置による意見を、職員会議で検討している。家族の面会時には、職員から積極的に声をかけ、家族が要望を話しやすい環境づくりに努めている。	電話による状況報告や面会時の交流等でコミュニケーションを図る中で、居間に置かれた個別ノートには、担当者により利用者の生活の様子や「○○さんの一日」が綴られ、自由な閲覧と書き込みが可能であり、相互の交流にも活用されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員会議、ユニット別会議を行っている。管理者は、日頃から個々の職員とのコミュニケーションがとれるよう努めている。	日常生活で感じる個々の職員の「気づき・思い」を大切に受け止め、「アイデア」を試みる中から、「工夫」のある支援と「改善」への仕組みの実践に努めています。ユニットリーダーを軸に職員の意見が反映できる体制作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境の改善に積極的に取り組み、職員体制の充実に配慮を行っている。また、職員もそのことを理解している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	6ヶ月に1回、自己評価、上司評価により、向上心の啓発に努めている。経験年数に応じた研修を受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修や講演会に参加し、他事業所との情報交換を行い、ネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員と顔みしりになることで安心できるように、本人、家族に来所見学してもらったり、訪問面会している。必要な支援について、本人、家族と話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居、契約前に面会し、必要な支援について話し合い、キーパーソンだけでなく、家族構成、状況を把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体、精神状態や、家族の負担を把握し、本人、家族にとっての最善の支援について話し合い、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、掃除、洗濯など一緒に行い、家庭で過ごしているのと同じように家族と考えて過ごしている。また、個々の得意なことを把握し、発揮できる環境をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見、昼食外食、縁日会、敬老会、もちつきなど、家族との共同行事を行っている。本人の心の支えなど、家族にしかできないことがあることを、日頃から話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人、知人の来所面会の受け入れや、本人の生活してきた地名、馴染みの人の名前を把握し、会話に取り込む。外出、外泊の規制をしない。	利用者との馴染みの人間関係の把握に努めると共に、本人や家族の思いを大切に受け取りながら、繋がりを継続できる支援に取り組んでいます。認知症の病状について、家族との共有の理解を深める中で外出・外泊の声かけも行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、トラブル時は、ひとりだけの入居者に寄り添うのではなく、お互いが孤立しないよう配慮している。また、集団生活の楽しさも提案している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先への情報提供や、退去後、独居となった方へ、手紙や電話で関係を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、毎日の生活を支援しているが、家族の意向も聞きながら、よりよい支援ができるよう、検討し、実行している。	家族との交流や職員の気づきの視点から、利用者の思いを真摯に受け止める姿勢を大切に、一人ひとりに添った支援の実践（体力保持・希望の尊重等）に向け全職員で取り組んでいます。集団（家族）としての生活（心）の支援にも励んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との会話により、情報を収集し、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重しながら、個々の残存機能を理解し、維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でモニタリングを行い、本人、家族の意向をくみ取り、医療からの助言も得て、計画作成している。	利用者の日々の姿等が個別ケア記録に整備され、全職員が共有の情報として把握する中で、医療面の専門的なアドバイスを受けながら、現状を大切に見据え、その人らしさを活かせる計画の策定に努めると共に、見直しが進められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別ケア記録している。排泄、食事、バイタルは一目でわかる様式にし、勤務前に必ず記録に目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の関係、個々の身体、精神状態に合わせた「○○さんの１日」を担当者が作成し、全職員が把握し支援できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域諸施設や団体、住民から協力を得られるよう働きかけを心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については家族と充分に協議し選定している。かかりつけ医へ、本人の情報提供や連絡を密にとり、緊急時にも対応してもらえるようにしている。	家族対応での医療受診後は、病院から必ず情報提供を受けており又訪問診療・訪問看護、後の情報も必ず共有出来るように記録に残し連携を密に取り適切な医療が受けられるように取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調急変時、看護師へ報告し、指示を仰いでいる。看護師はほぼ24時間、対応している。看護師とかかりつけ医、施設が契約している訪問看護ステーションとも連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院訪問、家族への様子伺いの連絡、MSWとの連携をとっている。協力病院へも当ホームの方針、理念を説明し、できるだけ早く退院できるよう配慮してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「みとりの指針」について説明している。また、家族会で、入居者の最期の過ごし方について、考えてもらえるよう話している。みとりの契約をした場合、家族、主治医、看護師、介護職で会議をもち、支援体制を整えている。	「みとりの指針」についての説明を行い家族の希望にそって柔軟な対応や他職種との情報の共有、連携を図る様に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員の指導で救急法の講習を受けた。看護師の指導、指示により、全職員が実践力を身につけられるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、緊急連絡網を作成している。	スプリンクラーも設置し備蓄の準備も整っています。緊急連絡網や職員役割分担表を見やすい場所に貼り訓練時に活用されています。	非常災害時、地域、近隣の方がたによる、協力体制作りへの積極的な取り組みに期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩であることを職員が念頭に置き支援している。その中で、家庭的な雰囲気を大切にし、個々の性格や場面に応じて、方言、敬語を使い分けている。	一人ひとりの残存能力に応じた役割を考慮し、昔から呼ばれ慣れた名前での声かけを行い、職員が一緒のテーブルに座り、完食出来るように声かけや、目配り、雰囲気づくりに努めていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いを表現しやすいような関係づくりに努め、さりげない「～しませんか」という言葉で問いかけ、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に合わせて過ごしてもらえるよう支援している。特に興奮時、不穏時は本人の行動を制止せず、寄り添い見守るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合った服を選び、訪問理美容の利用時はパーマや毛染めなど、個々で髪型の好みを注文している。起床後の洗顔、整髪、髭剃りの促しや、自力での身だしなみが困難な方には、職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、下膳、片づけを一緒に行い、職員も同テーブルで同じ物を食べている。メニューや素材の話題を提供し、雰囲気作りに努めている。	準備や片付けはさり気ない声かけや促しにより能力を発揮できる様に支援されており、利用者の方と同じテーブルで食事を楽しめる環境となっています。又完食出来るように声かけや、目配りを行い楽しい雰囲気づくりに取り組んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み、ミキサー、お粥など個々に合わせた食事形態で提供し、毎食の摂取量を確認している。いつでも水分補給できるよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている。食事中の咀嚼の様子、口腔内の観察を行い、義歯調整や治療の必要がある場合は、本人、家族に説明し歯科受診をすすめている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、声かけ、トイレ誘導行い、トイレで排泄できるよう支援している。	部屋にはポータブルトイレをなるべく設置しない取り組みを行っており、食物繊維を多く取り入れた食事メニュー、水分補給に重きを置き、排泄パターンも職員が把握し「トイレでの排泄」に向けての自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排便確認の重要性を認識し、個々の排便の有無を確認し、必要に応じて内服薬の調整を行っている。水分、食事摂取量にも留意し、生活の中で身体を動かせる支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はほぼ決まっているが、体調に合わせて変更したり、足浴を行えるよう支援している。汚染時には随時シャワー浴行っている。入浴剤をいれて、楽しめるようにしている。	一人ひとりに合った入り方を工夫したり、状態や状況に合わせた入浴方法や時折入浴剤を利用し心地よく、楽しむ事の出来る入浴支援に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや身体状況を把握し、昼寝をしたり、早めに就寝準備をしたりしている。消灯後も好みのテレビをみたり、職員と談笑したりし、それぞれのペースで過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のセット、管理は全職員で行い、処方箋をファイルし薬箱と一緒に保管している。薬の変更時は申し送りノートを利用し、職員が理解するようにしている。看護師から服薬時の注意点等、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、掃除、洗濯等、役割をもって過ごせるよう支援している。週2回、レクレーションを実施し、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季候の良い日には近所の公園まで散歩や、スーパーへ買い物に行っている。個々の希望を聞き、家族にも連絡し、可能であれば、一緒に昼食外食を行っている。家族の協力を得、花見に、全入居者、外出した。	積極的に食料の買い出しや散歩の声かけに努め、季節の外出や昼食外出も家族の方の協力が得られスムーズな外出支援が行われています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には、家族了承の上、お小遣い程度の金額を自己管理してもらっている。職員管理が必要な方は、職員が希望する物を購入用意している。一緒に外出した際は、レジで預かり金を渡し、本人が支払いできるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、手紙、電話については本人希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を掲示したり、カレンダーで日付のわかるようにしている。四季を感じ生活できるよう、冷暖房の温度に配慮している。雑然としがちな収納棚は布で覆い、混乱を	ゆったりと過ごせる様に共用の居間にはソファーが置かれ、広い窓からは四季折々の光や風を感じる事が出来ます。又一人ひとりのノートを作成されており面会に来られた方とのコミュニケーションの場ともなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファと、玄関横にベンチを置き、それぞれが気分に合わせて過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から、使い慣れた寝具や家具、電化製品を持ち込んでもらっている。居心地よく過ごせるよう、写真等を装飾している。	部屋には居心地良く過ごせる様馴染みの家具や家族写真、外出した時の写真等飾られています。ベットは「起き上がり」「立ち上がり」時に残存能力が発揮し易い様にベットの広さや高さ、柵の位置等に工夫が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室に手すりがついており、使用して残存機能を活かし安全に生活できるよう支援している。電動ベッドを導入し、本人の起立しやすい高さに調節している。		